京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第十七卷　第一號

大正十二年七月一日發行

論叢

賣上稅の缺點……法學博士　神戸正雄

私經營統計概論……法學博士　財部靜治

文化的認識と歷史的認識……法學士　恒藤恭

時論

農村問題と其の救濟策……法學博士　河田嗣郎

說苑

『諸國民の富』のダブリン版に就て……法學博士　河上肇

歷史派經濟學發達の徑路……法學士　山口正太郎

公娼の前借金に就て……經濟學士　岡崎文規

中世末期に於ける村落の結合を論ず……牧野信之助

雜錄

米國の新關稅法に就て……法學士　高橋康順

新マルサス主義英語通俗書解題……理學士　山本宣治

アダム・スミス生誕二百年記念會記事……委員

私經營統計概論（一）

財部靜治

Master of Business Administration（私經營學師）とは、本邦一大商工業都市に於ける、一高等專門學校の一教授により、保有せらるる學位なり。そは學位令に定められし、本邦從來の諸種學位を以て、萬般の學問を綜統せしむるに足ると、考ふる者にとりては、明經明法両博士の名目が、その耳に響くこと遠かるべきが如く、耳障りと想はるべき一名目なり、されど之を一學位として定むることの當否に關する、議論は別問とするも、米國の大學中、學位の一種として、現に之を定むるものあるの一事は、沒却すべからざると共に、諸國に於ける近年經濟學の發達上著しき一方面を、徵表せる名目たることは、誣ふべきに非ず、蓋し私經濟の一方面たる家事經濟に就き、全般並に部分に亘る、學理的研究を遂ぐるは、諸國に於ける晩近の一趨勢と觀じ得べきが如く、私經濟の第二方面卽ち私企業の經營にありても、企業の規模大となり、その內部構成及運營複雜を增せるに從ひ、之を學問の範圍內に遷すは、諸國に著しき近年の一大勢なればなり。斯くの如く私經營に關する、學理的研究の發達を見んか、之に基づく運營の結果を、逐一錄取すべき統計にありても、同樣に精密複雜を增すべきは、覩易き所なり、然るに之を本邦學界の現況に照して考

ふるに、少くとも統計學を統計學者として、研究する者にありては、その注意を官廳統計に集注せしむることに、偏するの嫌なきに非ず、統計學は「同種類の社會現象を多數總合し、其の數量に依りて、比較觀察する」もの（高等小學校讀本第三卷第三十課參照）なりと、考ふる人尠しとせず、是等の徒輩によりては、別に宏汎なる私製統計の範圍、現存するの事實必ずしも尊重されず、新興經營統計に至りては、その存否さへも問はれざるの、弊なきに非ず、一面舊來及新設高等商工業學校の課程につきて見るに、學校の數は益々多からんとするに拘はらず、その學校の性質上、相當に重んずるを至當とすべく、想はるる右の研究範圍、未だ幾何も開拓されざるものゝ如し、現に吾人は本年の初め、大阪能率研究所開所されたるに際し、私經營統計論の講述に當るべく、交渉を受けし儘、寧ろ阪神商業專門學校教授の中より、講師を物色するを可とすべき旨答へしに拘はらず、同樣なる交渉は近日第二回養成員養成さるゝに當りても、再び繰返されたるを見、深く怪訝の念に驅られたり、吾人は此現況に鑑み、聊か私經營統計につき論ずることゝせり、主眼とする所はその梗概を示すにあるを以て、該博は始めより之を期せず、こは讀者の諒恕を請ふ所なり。

一

勞働組合、慈善財團、學會と謂ふが如き、各種私的團體の統計にありても、隨時その統計作製手續の必要を、喚起せしむべきものは、その各團體の共同利害にありと謂ひ得べきも、特に私企

業にありては、畢竟その事業成績として、詳報さるべき諸現象を、計數的に明瞭ならしむるの利益、繼續的に現存す、此點に就き農業に關しても、農業團體として特別調査に當り、多數農場經營の結果を總括して、その生産費を明かにし、又純益を生むの諸條件を最終結果に對立せしめ、大小諸農場の特質、並に土地の性質により、收益及生産費に及ぼす影響等を、明かにすることにより、官廳統計を補ふ所あるべきは、謂ふ迄もなし、*否一般に農業及農業經營に付考ふるに、觀念上の取極めを之に施し、之を統計に數へ上ぐることは、割合に單純なり、從ひて農業經營統計に關する、研究中重さをおくべき要點は、實査のための諸基本概念を、明快に釋義することに存せずして、視取りの結果を整理するに當り、批判的商量を挿む點にあり、特に農業經營の分類上如何なる觀點又は標準を選ばば、學問及經濟政策の目的上、その調査の結果を巧みに利用せしめ得べきかを、究むるにありと論じ得べし、**更に尙農業經營統計詳言すれば、人的物的諸生産力の結合により、成立すべき農産の技術的經濟的單位に關する統計の、內容に亘り少しく細かに考察するに、その統計上經營の數を、問ふべきは素よりなるのみならず、特にその經營に備はれる、諸生産方便を問ふ、詳言すれば經營に屬せる土地面積（土地の大小、その利用方法、所有關係詳言すれば、經營の指揮者が地主たるや、借地人たるや等を問ふ）經營に備はれる資本（農具機械役畜及種畜等）を問ひ、又經營に從事せる人々を、その人員及經營に於ける地位につきて問ふ、

* cf. Conrad, Statistik. 4. Aufl. '18 S. 28.

** cf. Rudolf Meerwarth, Einleitung in die Wirtschaftsstatistik. '20 S. 84.

卽ち農業經營統計の範圍内に於て、土地の利用、家畜の現況、及農業に從事せる人々に就きても査定を遂ぐ、尤も外國の實例によるに、土地利用調査 Bodenbenutzungserhebungen 家畜調査、Viehzählungen 及農業に從事せる人をも、亦査定すべき職業調査を、何れも引離せる獨立調査とし、之を自存目的として統計を作製することあるも、そは農業經營統計に問ふ所と、根本的に異れり、蓋し後者の目的とする所は、個々の經營に就き、之に備はれる諸生産方便を問ひ、之が特色を明かにせんとするにあればなり、從ひてその調査の範圍は狹く、農業經營に屬する面積、家畜及人々を問ふのみなり、問題は全く異れり、尋ぬる所は各行政區劃に於ける、一般狀況に非ずして、諸種經營の狀況を特に注目す、殊に大小の別により經營階級別(面積に從ふ)は區別せられ土地利用、家畜及人員は、小、中及大經營の別により、如何に配屬せらるゝか、是等大小階級はその事績上(飼畜、穀作等につき)相違を示すかを究む、又之と別種の經營別を分ち、その相互比較を遂ぐることゝもなし得べし、假令ば土地利用の諸方法により類別し、その飼畜及人員につき、比較研究を遂ぐるが如き之なり、要するに經營統計によれば、個別農業現象を引拔いて、他と無關係に考察するが如き仕方によりては、遂げ兼ぬべき研究を遂げしむ、そは後者の如き考察方法に反し、農業統計の一層高尙なる一形式をなす、而して尙他の現象を經營統計に、引入れんとするの說も既に唱へらる、かゝて假令ば收穫量(普通に所謂收穫統計 Erntestatistik)をも、經營

統計に併せて調査さるべきものとせんか、小、中及大經營の相對的作柄も、比較し得べきことゝならん、之と共に尙注意すべきは、經營統計が元來一中心より、一樣に經營さるゝ土地に關するを以て、その經營は必すしも土地所有權と一致せざることなり、假令ば一大製糖工場が、幾多の農場を諸地方に買込み又は借集め、金錢關係上共屬の關係により、その間に金融上の一共通中心をおくも、農業上分れて經營さるる時は、之が計上につきても別々に之を取扱ふ。*

工業統計の一種として、基本的なる工業經營統計も亦同樣に、工業經營詳言すれば、工業の技術的經濟的單位の全體を、統計的に察取するをその本分とす、主として問はるべきは、經營の數工業の種類別、經營に備はれる生產方便(人員、原動力、作業機械等)にあり、之と共に各經營に從事せる、人々の數を以て、經營の大小を分つの標準となす(小、中、大經營)經營の諸法的(企業)形態別(個人としての業主經營、株式會社經營等)諸經營形態 Betriebssysteme の普及も亦問はる、而して全經營組織(工產裝置、經營の仕組)につき、その分業及給付能力を、表に示し得べきことゝなすべきなり、(諸大工業の所在地査定のため)地理的細別を附するの要あるは素よりなり、又調査を繰返して、發展の傾向(假令ば特定種類の工業、大小別に於ける一階級經營の增加)を認識すべし、かゝる現況視取り以外に、尙移動現象(特に新經營の創設、經營の消滅)の査定をも遂ぐべし、工業全般を包括すべき、普通の調査以外に、個別の特殊工業に關する、特別調査も

* cf. Žižek, Grundriss der Statistik, '21. SS. 298, 299; Conrad, Die Statistik der wirtschaftlichen Kultur, I. Hälfte' 2. Aulf. '13 S. 151.

行はれ得べく、又本製統計と複製統計と、交互に補足せしむることゝなし得べし。*

本邦の現狀にありては、以上說けるが如き、農工業經營統計に就きても、研究又評論を要するもの多しと雖も、吾人が本編に問はんとする所は、茲にあらずして寧ろ他の一義によれる、經營統計にあり。

二

上述の如き經營統計は、國民經濟的觀點よりなせる、普通經濟統計の一種となし得べし、されど個別の企業も亦獨立して、私製統計の作製者たること珍しからず、夫れ商工經營上由來その事業成績を判定せんとする際、その判定の材料を、殆んど皆簡單なる貸借對照表のみに、仰ぐの狀あり、好し此點は何れにしても、事業成績に關する組織的觀察とすべきものは、普通の簿記以外になかりき、されば私經營統計論述作の先鞭として、大に成功せる Albert Calmes, Die Statistik im Fabrik und Warenhandelsbetrieb, 1911 は、その序言中說き得たり、「實業企業に於ける統計の組織及技術は、今日に至る迄文獻中何處にも、その所在を有せず、されば予が本著を著はすに當りても、商工經營に於ける統計又はその諸部分を、筋立てゝ取扱へる著書全く存せざりき、外國語の文獻にありても、之あるを聞かざりき」と、然るに晩近に至り大企業時に、大鑛山、大工場百貨商店、大銀行、鐵道會社、海運會社、保險會社等にありては、生產効程の多少に注意を拂ふ

* Cf. Žižek, op. cit. S. 315.

こと多大なるに至り商工經營論（カウフメンニッシェ、ベツリーブスレーレ）（商人的經營論又は商事經營論ともなし得べし、されど軌近大工場の事務中には、工場商業 Fabrikhandel も重きをなすを以て、一層平易と考ふる所により、姑らく本名稱を選ぶ）簿記及會計論發達することゝなりてより、之に伴ひ各企業に於ける、私經營統計の理論及實際も發達し、企業の全經過及結果に關し、私經濟方面に仕向けられたる、內部業務の實際統計事務を常務とするもの益々多く、之がために獨立の統計部を設け、繼續的私經營統計を編成するの風、益々普及することゝなれり、*獨逸語の用例によるに、工場にありては多くは經營統計と呼ぶも、商事企業にありては商賣統計 Geschäft statistik とも呼ぶ。

私經營統計の目的は私經濟的なり、經營指揮者に適切なる知見を授け、之をして企業の收益力昂進の効果を伴ふべき、良洞察及統制を遂ぐることを眼目とすべし、かゝる私經濟的統計を以て國民經濟的統計と區別すべき點は、第一にその統計により、營利經濟的利益のみに、資せんとする點にあり、されど大相違を示すは、その調査の物體にあり、卽ち國民經濟と謂ふ場合、一國に於ける個別經濟の全體を解し、國民經濟學及國民經濟統計は、個別經濟相互の交互關係、及その結果を研究す、從ひて假令ば貨物を供給し、需用すべき個別經濟の競合による物價形成、及かくて成立せる物價そのものを研究す、之に反して私經濟統計は、特に一個別經濟內に於ける、成行をその對象とす、その研究手續上特定の概念、假令ば經費及その細別、現品目錄、注文等の、私

* Cf. Žižek, op. cit., S. 451, Schott, Statistik, '13. 5. 24.

經濟的概念を下し、又その研究目的上、種々なる私經濟的經營の成行及經營の結果を、交互に比較することとす、從ひて右私經濟的統計は、言下に國民經濟的統計と、混一さるべきに非ず、從來又獨逸に於ては、通常私經濟學系統論の範圍内にて、取扱はれたり、而も亦両者の間に、一關聯あること珍しからず、そは普通の國民經濟的調査、假令ば工產調査上、個別企業をしてその企業に備はれる、一經營調査にその料を仰ぎ得べき、報告をなさしむるが如き仕方にて然り。*

序に尙注意すべきは、農業につきても亦既に、些少の私經濟的統計發達せることなり、されどそは個別企業の利益を、その眼目とするのみならず、農業經營論の刷新にも亦稗益せんとし、國民經濟的教訓をも亦授けんとす。**

前記 Calmes は大工業經營に、行はるべき行動甚多方面なるため、その經營の組織及會計は同一規模の商店に見るべきものに比し、一般に一層困難なるの事實に鑑み、私經濟企業の組織、及その諸機關の活動につきても、會計的部分及統計機關の、建設及事務につきても、工場に適用されたるものとして、之を取扱ふを便とすとなせり、加之種々の出來事及結果は、その本質その原因及結果上、之を生める諸事情大仕掛けなるに從ひ、愈々鮮明に認識せらるべきを以て、特に大經營の工業に於ける、諸施設に則りてその所說を進めたり、而して各大工業企業は、その製作工程を外にして議せんか、同時に獨立の一商事營業たるや、著明の事實なるを以て、工場經營の

* Cf. Žižek, oq. cit., S. 269.
** Cf. Ži.ek, op. cit., SS. 31· 32.

商務部統計につき說かるべきものは、商店の統計につきても亦適用さるべし、そは特に統計、圖表統計の技術、並に私經濟的統計の諸分枝、假令ば資產統計、利潤統計、人件統計、現品統計、注文統計、販路統計、及景氣統計の如く、商店事務にも工場經營にも、同じ程度に問はるべきものに於て然りとすとせり、その著書第一編中には、統計技術の一般說明を試みたるが、著者はこの部分の說明を以て、銀行、保險及運輸の諸企業にも、全部適用さるべしとせるに拘はらず、夫等企業に取扱はるゝ、商品及給付の特質上、特別の一性質を示すにより、その統計の建設は、同書中關說せずとせり。*（銀行の經營統計につきては、Adolf Herlein, Die Statistikim Dienste der Bankorganisation, 20. あるを注意す）。（未完）

* Cf. Cames, op.cit., ss. 2, 3.